



「脳性まひ児の学習基礎能力

(就労準備の治療訓練プラン)」

B.Brereton, J. Sattler, M. Ironside 著

木村 信子, 宮前 珠子 訳

十数年前、訳者のひとり木村氏から就学準備の治療訓練プログラムについての具体的なアイディアとテクニックについて講義を受け、職場にもどり、教材の一部を作成した事を思い出し、この本を読んだ。当時、脳性麻痺児や片麻痺患者を治療している OT がどんなに学習障害について学びたかったか、今思えば“早く訳本が”という思いで原本を購入した人もあった。昨年末、OT 協会主催の感覚統合理論の研修会と並行してこの本が出版されたことは、今なお、この問題が大きくあるのだと考えさせられた。この本は、スパスティックセンターで過去9年間使用されて来たものであり、知的レベルが3歳～5歳半の脳性麻痺児の治療のために考案されている。

選択された教材は6つの系列に区分され、それぞれの系列には、セラピストがこれを利用する際に注意を向けるべき特別の目標が簡単に説明されている。また、子供が可能なレベルや他の子供のそれに対応する一般的知的能力との比較の仕方についてもセラピストが理解できる

ようにしてある。特徴は、触れること、感じること、動くことが強調されている点であり、専門家のみならず両親がこれを用いることができるように書かれており家庭においても行われるようになっている。課題は興味深くし、子供に失敗よりも成功感を味わえるように徐々にむずかしくしてある。教材、作業内容については、日本の遊びにないものもあるが似ているものもある。百近い教材を作ったり見つけ出すには、時間を要するだろうが、作り出す事の得意な OT にとって新しい遊びやおもちゃを工夫し作することは、子供と同じように楽しいものだろう。実際にこのプログラムを行い日本児との相違を研究し、日本の風土や生活環境の中から治療のための教材を生み出すことも私たち OT の仕事であろう。ぜひ購読をし意見交換が出来たらと思う。

(B 5, 240 頁, 図 130, 3,800円, 〒 300

協同医書出版, 1981)

(東京都北療育園 作業療法士 大西 麓子)